

日本列島を縦断した台風17号は各地で大きな被害をもたらしました。越美山系砂防事務所管内は先の台風16号と秋雨前線の影響により相当量の降雨があった直後のため警戒していましたが、幸いなことに総雨量が100mm前後で、大きな被害を受ける事はありませんでした。

断層破碎帯が現れる =大蔵谷=

大蔵谷(おぞうだに)第1砂防堰堤道路工事【揖斐川町榎原(かしはら)地先】では、現在、既設林道の付け替え工事を行っています。(施工:(株)久保田工務店)

施工箇所の付近には谷汲断層が通っているといわれています。この断層の影響と思われる断層破碎帯が、工事箇所の切り土面にも確認されました。



断層破碎帯は岩盤が揉まれた状態で、破碎が進行すると粘土のような細粒物質で充填されたようになります。上の写真の矢印の方向に断層破碎帯が通っており、粘土化した細粒分の層が黒っぽく見えます。また、岩盤も大きな力で破碎されており、無数の亀裂が入り角礫化している様子がうかがえます。大蔵谷の現場では、付け替え林道の安全性を確保するために、脆くなった法面を補強しながら工事を進めています。

安全パトロールを実施 ～砂防工事安全技術協議会～

揖斐川流域で砂防工事を実施する建設会社で組織する砂防工事安全技術協議会が、9月25日に安全パトロールを実施しました。今回のパトロールは、先の台風16号により被害を受けた現場を中心に行い、被害の状況や復旧途中の現場の安全管理等について点検しました。

このような取り組みを行う事により、協議会加盟各社の安全技術の向上が図られています。



外津汲内容の現場にて、点検結果を報告し安全性向上に向け確認

深層崩壊渓流(小流域)レベル評価区域図を公表

越美山系砂防事務所では、深層崩壊渓流(小流域)レベル評価区域図を作成し10月1日に公表しました。

9月10日に国土交通省砂防部より、深層崩壊の頻度が特に高いと推定される地域を中心に、深層崩壊の発生のおそれのある渓流(小流域)レベルの評価を行った「深層崩壊渓流レベル評価マップ」の公表されましたが、揖斐川上流部は含まれていませんでした。

揖斐川上流部では、過去に「ナンノ谷の大崩壊」等深層崩壊による天然ダム形成と、その決壊により多大な被害にみまわれた地域です。そこで、事務所独自に全国調査の調査方法に基づいて評価して公表したものです。

公表資料の詳細は、下記URLより確認してください。
<http://www.cbr.mlit.go.jp/etsumi/topics/sinnsouhoukai121001.pdf>

緊急時のお助けマン =緊急作業=

当出張所管内には、過去に設置した砂防堰堤や渓流保全工などの砂防施設が約170施設あります。これらの施設の中には台風等の豪雨によって施設に被害を受ける場合もあります。大規模に被害を受けた場合は別途復旧工事を行います。小規模な被害箇所の復旧や山腹崩壊等による土砂の撤去等、緊急的に復旧が必要な場合など通常の工事契約の手続きを経て作業しているのが、揖斐川砂防出張所緊急作業(施工:揖斐昭建設株)です。

先の台風16号の豪雨でも、日坂川貝月谷(かいづきだに)【揖斐川町日坂(ひさか)地先】や大谷川(おおたにがわ)【揖斐川町坂内広瀬(さかうちひろせ)地先】の管理用道路等の一部被害を受けました。これらを緊急的に復旧し早期の解放のための作業も行っています。

施設管理をしていくうえで、このような地道な作業をこなす緊急作業は「縁の下の力持ち」的な存在です。

貝月谷管理用道路に堆積した崩壊土砂を撤去



倒木は切断して搬出

現場説明会を開催 =瀬戸谷=

9月29日に瀬戸谷(せとだに)第1砂防堰堤【揖斐川町日坂(ひさか)地先】を施工する(株)山辰組が、日頃の工事でご理解とご協力をいただいている日坂地区の皆様を対象とした現場見学会を開催しました。高橋副区長を始め32人の方が見学会に参加していただき、今回設置した砂防堰堤の機能や工事の施工状況等を説明しながら、現場を見ていただきました。当出張所からも、先の台風16号豪雨の被害状況等の説明や、「忘れない 紀伊半島天然ダム災害」のパネル展示等を行いました。

参加された地元の方からは、「こんな立派にしてもらえて本当に良かった。これで安心や。ありがとう。ありがとう。」と何度もお礼を言っていたおばあさんや、「私たちの生活している地域は、このような防災工事をしてもらいたい箇所がいっぱいある。これからもよろしくお願ひしたい。」「この前の大雨(台風16号豪雨)でもものすごい雨が降ったが、この堰堤ができれば安心や。」といった感謝の言葉を沢山いただき、こちら側が恐縮してしまいました。



休日にもかかわらず大勢の方に集まっていたいただき、この地区の土砂災害に対する関心の高さを感じました。



事業概要等の説明
木澤技術係長

工事施工方法の説明
現場代理人 牧村さん

輝け はばたけ 誰もが主役 ぎふ清流国体

9月29日に“ぎふ清流国体”の総合開会式が行われ、県内の各地でも各種競技が始まり、選手たちの熱戦が繰り広げられています。

当出張所が所在する揖斐川町でもカヌー競技が9月30日より始まり、参加選手の熱いパドル捌きが繰り広げられていました。



古田岐阜県知事が選手を激励

現場は地上100m以上 =八草川=

平成22年1月に山腹崩壊が発生し、崩壊土砂が一部八草川を塞ぎ止めた崩壊箇所の復旧のための山腹工事が本格的に着手しました。(施工:(株)久保田工務店)

現在は、崩壊箇所の最上部の施工を行っています。地上100m以上の場所に足場を組んで、斜面を安定させるために鉄筋を挿入しています。



下から見上げると作業現場は遙かかかた



安全な作業を行うための足場を設置するのにも一苦労

斜面作業用安全帯操作訓練

今年度の当出張所管内の工事は、山腹工や斜面对策を行う工事が多くあり、出張所の職員も検査等で斜面を登る必要があります。安全に確認作業を行うために、ロリップ付安全帯の使用法を習得するための訓練を実施しました。

日頃、使っていない腕の筋肉を目一杯使ってしまったため、訓練後の腕は**フルフル**状態でした。



宇津志谷の現場で親綱1本を頼りに急斜面を移動



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。

また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: ibigawa-sabo@beach.ocn.ne.jp